

令和 5 年 12 月 26 日

浜田市議会議長

笠田 卓

様

議員名

中 尾 昭

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間

令和 5 年 12 月 12 日 () : ~ :
19:00 ~ 21:00

2. 研修内容

地域循環を促す酒造り。

3. 研修先

スマート・ラボリー協会。

4. 調査経費

1,000 円

5. 調査研究活動の概要

別紙にて。



地域循環を促す酒造り

～トキの再生から世界とのツナガリまで、佐渡に学ぶ日本の未来！

日時：令和5年12月12日、午後7時00分～午後9時00分

主催：スマート・テロワール協会

場所：オンライン講演会

司会進行： 藻谷浩介 氏（日本総研上席研究員）

講師： 尾畑瑠美子 氏（欧州帰り 真野鶴5代目）

*佐渡を学ぶ

地形は日本の縮図。

面積は東京都の1.4倍、人口は5万人、酒蔵が5ヶ所、江戸時代は10万人。

徳川家康 → 金山があったので直轄領にし、120枚の棚田があった。

初代奉行は大久保長安石見の守。江戸末期には250ヶ所の酒蔵があり、現在は5ヶ所である。

1. 尾畑酒蔵

- ・1892年創業。瑠美子 氏 → 大学卒業後、日本ヘラルド入社。

1995年彼氏を連れてUターン。古里の人口減少、観光衰退、都会と地方の格差、酒市場の減少に驚く。

- ・佐渡の自然環境 → 国仲平野の酒米、二つの山に囲まれた美味しい水、人、トキが生息するなど、恵まれた環境。
- ・海外へ打って出る → アメリカ・シンガポール・韓国・台湾。2007年、パリにてIWC博覧会、真鶴で金賞、続いてロンドンでも高評価を受ける。

佐渡の個性を載せた酒の輸出は、飲んだ人達が生産地を訪れる。

2. 学校蔵との出会い

2013年、廃校の小学校を利用して、2014年二箇所めの酒作りを始める。

棚田でコシヒカリをつくり、持続可能な地域づくりを始める。

3. 交流

学校蔵の特別授業 ～ 佐渡から考える島国日本の未来 ～

2014年より(人が減っても出来ること)(人が減ったら増えること)

毎年リアル開催。養老孟司さんも参加。

4. 学び

① 1週間で酒づくり体験プログラム → 卒業証書を渡す。

② 日本酒特区第1号 → 世界から生徒が集まる。

考察

弥栄町のふるさと体験村が見習うべきサンプルだと考える。あるものを利用して、様々な体験コースが出来る。是非とも視察を検討すべきでは。

以上報告します。

牛尾昭